

**第一支部****支 部 報 告****報告事項**

## 1、第2回 地区役員会

日 時：平成25年10月23日（水）19：00～

場 所：埼玉社会保険病院 検診センター2階

参 加 者：7人

内 容：次回勉強会について

浦和区健康まつりについて

新年会について

## 2、浦和区健康まつり

開催日時：平成25年11月2日（土）10：00～16：00

開催場所：浦和コミュニティセンター（コムナーレ10階）

開催内容：超音波骨密度測定

医療画像展

測定人数：355人



## 第二支部

### 第二支部からのお知らせ

第二支部 柴 俊幸

#### 1) 勉強会のデータ配布に関するお願いとお知らせ

第二支部では、現在勉強会ごとに頂く 500 円の参加費を資料代とし、毎回演者の方のご好意により頂いたスライドおよび資料をデータとしてお渡ししています。

来年度からの構想としては、参加者にお渡しするデータを第二支部の HP 上にパスワード付きのデータとしてアップロードする運用方法を考えています。運用が開始された場合、パスワードは勉強会ごとに変更を行い、参加者へプリントなどでお配りする予定です。なお、データの取り扱いに関しましても、これまでの CD-R の配布時と同様に、個人的に使用する以外（二次使用や配布）は行いませんようご協力をお願い致します。また資料提供者の意向により、HP から予告なく削除させていただくこともありますことをご了承ください。連絡事項については随時 HP に掲載予定となりますのでご閲覧いただけると幸いです。

(第二支部 HP : <http://saitama2shibu.jimdo.com/>)

## 2) 勉強会開催報告

第二支部では平成 25 年 9 月 16 日（月）、10 月 17 日（木）に第 4・5 回勉強会を開催しました。以下座長集約をもって開催報告とさせていただきます。

# 平成 25 年度 第二支部 第 4 回勉強会一般研究発表座長集約

防衛医科大学校病院 放射線部 小池 正行

「整形領域の撮影技術向上を目指して」一般撮影部門として済生会川口総合病院の土田拓治氏から「一般撮影における Exposure Index を考える」と題した発表があった。

X 線撮影を検像する場合には、ポジショニング、撮影条件、診断する目的にかなう画像であるかの検討が必要である。

今日、放射線撮影技術の中で一般撮影においてもアナログからデジタルへの移行が進み、撮影条件に関してアナログでは写真の濃淡で条件の適正化が確認できたが、デジタル化による自動補正のために撮影者自身に条件の適正化が曖昧になる弊害を無視できない。そこで撮影条件の適正化のための新たな基準が Exposure Index である。

今回、土田講師は、具体的な図解と分かりやすい計算式により、Exposure Index 入門者にとっても十分理解できたと思う。また再撮影例として尺骨遠位端骨折術後を挙げ、手関節 2 方向では目的に合わず再撮影を行った。撮影教科書ではあまり見かけないが、尺骨 2 方向は手関節の回外では不十分であり前腕 2 方向と解釈する方法を提案した。今後、より解剖学見地に立ったポジショニングや Exposure Indexなどを考慮した一般撮影技術の研究が望まれる良い機会となった。

最後に、FPD の開発により撮影から画像表示までアナログでは数分かかったところを数秒で表示されるようになった。ポジショニングもそのまま画像が確認できるともっと良い画像を撮りたい誘惑に駆られるのが技師である。しかし、被ばくのことを考えれば、再撮影をしない撮影法の研究をすることがこれからの技師の使命であると考えている。

## 平成 25 年度 第二支部 第 4 回勉強会特別セッション (CT) 座長集約

埼玉石心会病院 放射線科 山田 幸一

今回の特別セッションの題目は、『整形領域の撮影技術向上を目指して』であった。

去年も同様の題目で四肢領域中心、今年は済生会川口総合病院豊田奈規さんによる椎体中心で、内容も、脊椎の解剖・撮影時の患者のポジショニング・撮影プロトコル・CT の有用性・症例毎の工夫点など内容盛りだくさんであった。

脊椎の解剖では、脊椎の役割・働きについてと、椎体・椎間板・椎間関節・靭帯・椎孔・脊柱管など CT 画像を交えて説明していただいた。

撮影時の患者のポジショニングにおいては、頸椎撮影時、義歯によるアーチファクトを防ぐため義歯を外す低い枕を使用し頸椎のアライメントに影響を与えないようにする事は普段の CT 撮影時に気を付けていたが、もう一つの利点として水晶体を撮影範囲から外し、水晶体被ばくも軽減できるという事であった。頸胸椎移行部の撮影では、片方の上肢を挙上する swimmer's position を使用し、ストリークアーチファクト軽減を目的としたポジショニングを知った。普段両側上肢を体幹に下ろして撮影していたので、今後頸胸椎移行部の撮影では、swimmer's position を使用してみたいと思う。

CT の有用性・症例では、様々な症例提示をし、症例ごとに症状の出方・発生機序・画像所見を話していただいた。

MPR 画像・3D 画像も工夫がみられ大変勉強になった。

後縦靭帯骨化症 (OPLL) の 3D 画像では、椎弓部分を切り取った 3D 画像を作成することで後縦靭帯が骨化した部分を立体的に観察することができていた。

また、脊椎分離症は椎間関節の基部の骨が分離する状態であるが、普段 MPR 画像は椎体に対しての MPR 画像を作成していた。しかし、スライドで分離した椎弓に沿って thin slice を作成する事により、骨の分離部が明瞭な画像が作成できていた。このような画像の表示の仕方もあるのだと勉強になった。

解剖・症例を理解し撮影することにより、MPR・3D 画像など医師が必要とする画像を提供できるのだと考えられる。

脊椎・脊髄外傷では、椎体の脱臼・骨折は椎骨動脈損傷を伴う可能性があり、血管損傷による意識障害などを疑う場合は造影 CT を行い出血の検索を行う、軟部組織からの出血を認める場合は動脈相に加え実質相も必要ということであった。外傷時は、椎体の骨折・脱臼・脊髄損傷などに意識が行ってしまいがちであるが、骨条件だけでなく軟部条件も注意して観察し、臨機応変に対応できるようにしていきたい。

今年度入職した新人も、入職し約半年が過ぎ、業務で CT 検査を行う機会も増えている時期であり大変勉強になったと思う。

## 平成 25 年度 第二支部 第 5 回勉強会一般研究発表座長集約

埼玉社会保険病院 八木沢 英樹

今回、一般発表が3演題あり、最後の演題である「MMGとUSにおける石灰化病変の抽出について」埼玉協同病院 新島正美 さまより発表をいただいた。USでは不得意である石灰化病変抽出についてマンモグラフィーを交えながら検討していただいた。

内容として、USで描出できる病変はUSガイド下のCNBまたはMMTを選択し、描出困難な病変はステレオガイド下のMMTを選択。MMGで指摘された石灰化病変がUSではどのように描出されるかを検討。対象：2012年8月～2013年8月までCNB・MMT・OPE症例で組織診断が確定している症例のうち石灰化を含む症例29例（病理画像でのみ指摘された石灰化や当院でMMGを施行していない症例は除外した）。使用装置は、MMG: PHILIPS社製 MammoDiagnost DR、US: 東芝メディカルシステムズ社製 Aplio XG (PLT-805AT・PLT-1204AT)。方法：各症例の乳腺密度・石灰化の形態・分布を描出し、MMG・US・病理画像を比較。検討項目：①頻度が多かった微小円形・集簇性石灰化のUS画像の描出パターン（MMGの場合カテゴリー3）②頻度が多かった微小円形・集簇性石灰化の病理画像。結果：29症例中、微小円形・集簇性石灰化を呈した症例は16例であった。16例中、USでの描出パターンは5通りであり、正常乳腺内のechogenic spot (MP・DCIS)のパターンが多かった。①低エコー域内のechogenic spot (6例) ⇒ MP (乳腺症) (3例)・浸潤がん (2例)・DCIS (非浸潤性乳管がん) (1例) ②正常乳腺内のechogenic spot (7例) ⇒ MP (4例)・DCIS (3例) ③等エコー域内のechogenic spot (1例) ⇒ IDP (乳管内乳頭腫) ④嚢胞に付随するechogenic spot (1例) ⇒ MP ⑤抽出不可 (1例) ⇒ DCIS

以上の結果5パターンをMMGなど交えて詳しく説明していただいた。USでの石灰化描出は数年前では難しく、USの進歩により乳腺検査・生検方法で重要な位置を確立していくことがうかがい知れた。今後、乳がん検診では深部まで詳細に石灰化などを観察できるUSは、MMGと組み合わせを強く進めていくようである。今回の発表はとても貴重な内容となった。

## 平成 25 年度 第二支部 第 5 回勉強会特別講演座長集約

社会医療法人財団石心会 さやま総合クリニック 大野 香

第五回第二支部勉強会の特別講演は、講師にパークタウンクリニックの矢幅先生を迎え、「上部消化管撮影 こんな時どうする」と題して行われた。

病変を見逃しやすい撮影部位、透視観察のみの部位とその撮影法そして変形胃の矯正法と示現域の違いなど、症例を交えながら基準撮影法に則って説明していただいた。

はじめに、基準撮影法とは、新・胃 X 線撮影法ガイドライン改訂版に示されている撮影法で、現在、上部消化管撮影を行っている施設の多くで採用されているとのことであった。また胃がん検診の精度指標のうち、画質の安定とさらなる向上を目的に規定されたもので、必要かつ最小限の体位（数）で組み立てられた簡明な撮影法であり、「NPO 日本消化器がん検診精度管理評価機構の胃がん X 線検診技術部門テキスト 2011 年度版」では、「読影診断の際には、胃がん X 線検診では良悪性判定（質的診断）、術前検査では形状診断や質的・量的診断が精度評価の要点となる」としており、存在診断が可能な胃粘膜の描出性・良悪性の判定ができる画像が求められているとのことであった。

病変の形状を明らかにするためには、病変の正面像が必要不可欠であり、どの領域に病変が存在しても撮影できる技術がなければならず、流出バリウムにより病変が撮影できない・病変の全様が撮影できないといったことを防ぐ方法として、①バリウム飲用前に透視下にて胃の形状を空気像で把握する②牛角胃の場合の食道撮影は第一斜位の角度を強くし、撮影台を 10～20° 傾斜させ、バリウムの十二指腸への流出を防ぐ③右回り 360° 回転変換は、撮影台の起倒と 360° 回転変換をクロスオーバーさせ、効果的に胃全体の粘液除去を行う④体位変換や撮影時はバリウムの移動を透視下にて観察し、ヒダの走行や胃粘膜の変化だけではなく、辺縁の変化も注意深く観察する⑤胃形により描出範囲が異なるため、圧迫筒や前壁枕を用いて胃形の矯正を行うなどのテクニックを提示していただいた。

診断をするのは私たち診療放射線技師ではないが、病変の見逃しの責任は撮影者にもあるという思いで検査に臨み、今回の講演を今後の業務に生かしていただければ幸いである。

## 3) 所沢市健康まつり開催報告

## 「所沢市健康まつり」に参加して

所沢市市民医療センター 星野 友香

平成 25 年 11 月 10 日（日）、第 26 回所沢市健康まつりが開催されました。

当日の天候は予報に反して晴れ、来場者数は 1000 人を超えました。

今年の骨密度測定者数は 339 人で、去年の 370 人より若干少なくなりました。しかしそのおかげで、少ないスタッフでも休憩を取ることができました。12 時過ぎから行列がなくなり、待ち時間も 10 分以内になりました。

イベントは滞りなく無事に終了しましたが、準備は大変でした。

骨密度装置を宮原まで取りに行かなくてはいけないことになったのです。

実行委員を務めるのは今年が初めてですが、まさか輸送をプロにお願いすることができないとは知りませんでした。

私のような素人が、ほぼペーパードライバーとっていい私が車を運転して無事に骨密度装置を届けられるのかと、運転する前日は不安で 2 時間眠れませんでした。

しかも、職場の病院の車にはナビがついていません。ナビのない車を運転するなんて

地図のない道を運転するに等しいことです（私にとっては・・・）。

道路地図を見て予習はしていたものの、実際の道路は違いました。いや、違ってはいないのですが宮原に行きたいのに、左は上尾、直進は熊谷。どちらに行けばいいのか分かりません。とはいえ、野生のカンでなんとか無事に到着することができました。

来年からは、ナビつきレンタカー代を予算に入れよう、と決心しました。

## &lt;実行委員&gt;

大西 圭一（所沢ハートセンター）

肥沼 武司（国立障害者リハビリテーションセンター）

梶野 恒三（所沢市市民医療センター）

大泉 景子（所沢市市民医療センター）

星野 友香（所沢市市民医療センター）

# 第三支部



## 第三支部だより

第三支部理事 庭田 清隆

- (1) 第3回 第三支部 勉強会 開催案内
  - 日時：平成26年3月20日（木）19時00分～予定
  - 場所：埼玉医科大学総合医療センター 5階小講堂
  - 内容：演題名（仮）平成26年度診療報酬改定速報 講師 バイエル薬品株式会社様
- (2) 平成25年度 第三支部 定期総会 開催案内
  - 日時：平成26年3月20日（木）20時30分～予定
  - 場所：埼玉医科大学総合医療センター 5階小講堂
  - 内容：平成25年度事業決算報告、平成26・27年度役員改選、平成26年度事業計画案
- (3) 第4回 第三支部 役員会
  - 日時：平成26年3月20日（木）21時00分～予定
  - 場所：埼玉医科大学総合医療センター 5階ゼミ2
  - 内容：平成26年度役員改選による引き継ぎ

## 第三地区会

- (4) 第三地区 新年会 案内
  - 日時：平成26年1月25日（土）19時00分～21時00分
  - 場所：甘太郎 川越店
  - 内容：新年を迎え地区会員の今年の意気込みを聴く（新入会員の皆様、ぜひご参加ください。）
- (5) 第三地区 ボウリング大会開催報告
  - 日時：平成25年10月23日（水）19時00分～21時00分
  - 場所：川越ボウリングセンター
  - 人数：39人

毎年恒例の第三地区ボウリング大会に、たくさんの方が参加していただき大いに盛り上がった大会、日頃のストレスを発散することができました。  
来年もたくさんの方の参加をお待ちしております。







(6) 第27回 川越市健康まつり あなたのための医療画像展開催報告

日時： 平成25年11月10日（日） 10時00分～14時00分  
 場所： 川越市総合保健センター  
 参加： 11人（協力メーカー2人、第三支部協力委員1人を含む）  
 回覧者： 468人（川越市健康まつり総来場者数 1,700人）



川越市マスコットキャラクター ときも

例年に比べ来場者数の少ない健康まつりでしたが、医療画像展には昨年と変わらぬ回覧者が訪れていた  
 だき、診療放射線技師の仕事・様々な医療画像を見ていただくことができました。

(7) 第二支部第三支部第四支部合同勉強会開催報告

日時： 平成25年12月7日（土） 12時30分～18時30分  
 場所： 埼玉医科大学かわごえクリニック 6階 大会議室  
 参加： 95人  
 内容： 『外傷 ～救急を学ぶ～』について

メーカー講演

「最新CTによる外傷CT臨床応用」

- ・東芝メディカルシステムズ株式会社 CT 営業部 新井 信夫氏
- ・株式会社フィリップス エレクトロニクスジャパン 菅原 崇氏
- ・シーメンス・ジャパン株式会社 大西 哲夫氏
- ・GEヘルスケア・ジャパン株式会社 大川 博和氏

技師講演

- 「頭部の外傷」 小川赤十字病院放射線科部 伊藤 寿哉
- 「胸部領域の外傷」 埼玉医科大学国際医療センター中央放射線部 佐々木 悠
- 「腹部領域の外傷」 埼玉医科大学国際医療センター中央放射線部 長島 渉





特別講演

「Trauma Radiology:外傷初期診療における画像診断とIVR」

聖マリアンナ医科大学 救急医学

国立病院機構災害医療センター 放射線科

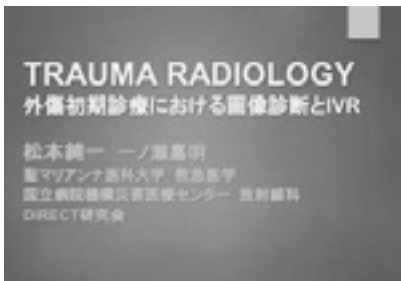
松本 純一先生

第二支部第三支部第四支部合同勉強会が開催され、総勢 95 人が参加いたしました。

昨年に比べ、さらに多くの方が参加していただき支部を越えた活動が活発となったと感じております。

今後とも会員のみなさまにより多くの情報を提供するべく努めてまいります。

たくさんの方の参加をお待ちしております。



(8) 第二支部第三支部第四支部懇親会開催報告

日時	平成 25 年 12 月 7 日 (土)	18:30~20:30
場所	ラ・ボア・ラクテ川越 2 階	
参加	27 人	



- 巻頭言
- 告示
- 示
- 会
- 告
- お知らせ
- 学術大会
- 技術解説
- 報
- 告
- 動本
- 会
- きの
- 掲各
- 示支
- 板部
- 強各
- 会支
- 情部
- 報勉
- 自由
- 投稿
- 議
- 事
- 録
- 動会
- 員
- 向の
- 役員
- 名簿
- 申F
- 込A
- 書X
- ジ年
- コ間
- イス
- ルケ

## 第四支部

### 報告事項

#### 1) 深谷市福祉健康まつりの中止について

平成 25 年 10 月 27 日（日）、例年行われている深谷市福祉健康まつりに本年も参加する予定でしたが、台風の影響のため主催者から中止の連絡があり、残念ながら活動を行えませんでした。来年度も例年通り参加を予定していますので、皆様のご参加お待ちしております。

#### 2) 第四地区忘年会の開催

平成 25 年 11 月 29 日（金）、キングアンバサダーホテル熊谷にて地区忘年会を開催しました。79 人の会員に参加していただき、第四地区会らしい、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。また熊谷外科病院 中野寿夫先生が埼玉県公衆衛生事業功労賞を受賞され、中野様から受賞の喜びのお言葉をいただきました。

#### 3) 第二・三・四支部合同勉強会の開催

平成 25 年 12 月 7 日（土）、埼玉医科大学かわごえクリニックにて合同勉強会を開催しました。総参加者 95 人と、多くの会員にお越しいただきました。実行委員・講師の方々、本当にお疲れ様でした。

### 今後の予定

#### 1) 中野寿夫氏 埼玉県公衆衛生事業功労賞を祝う会

日 時：平成 26 年 2 月 1 日（土） 18 時開宴

場 所：キングアンバサダーホテル熊谷

#### 2) 第四支部勉強会

日 時：平成 26 年 2 月上～中旬

内容等：未定

### お願い

会員の皆様に速やかに勉強会案内・各種情報を提供したいと思っております。

しかし情報が届かないということが発生しております。そこで皆様のアドレスを教えていただければと思っております。山田より直接メールが届く会員・施設以外の方は、職場でも、個人でもどちらでも結構ですので教えてください。山田宛に「施設名」「御名前」を記載し送信してください。よろしく願い致します。

第四支部理事  
小川赤十字病院  
山田 伸司  
s-yamada@sart.jp

## 埼玉県公衆衛生事業功労賞受賞させていただきました

特定医療法人同愛会 熊谷外科病院  
中野 寿夫

先般、私は公益社団法人埼玉県診療放射線技師会の推薦により、埼玉県公衆衛生事業功労賞をいただきました。小川会長をはじめ会員の皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。

今、思い出すと今日までが走馬灯のように感じられ、業務も無我夢中で行ってきたように感じられます。国家試験に合格した頃、CT装置は限られた施設にしか設置されてなく、最新装置でも撮影時間は1スライスあたり5秒くらいかかったように思えます。一般撮影においては、全てがアナログ撮影で、患者様の体厚や体型など考慮して撮影条件を設定するのに、苦慮したのが懐かしく思えます。今ではデジタル撮影が主流となり、撮影条件もあまりシビアにならなくても適切な画像が描出され、装置に重点が置かれた業務と言われても過言ではありません。しかし、我々が携わる業務は患者様を主体に業務が行われ、患者様そのものを忘れてはならないと思います。今回の受賞を糧に、さらに患者様をはじめ職場スタッフ地域の方々から信頼される診療放射線技師となるよう、努力する所存でございます。



## 第五支部

### 情報交換会

場所は春日部市民活動センター〔ふれあいキューブ〕

1月23日 19:00～

2月27日 19:00～

詳しくはHP等でご案内いたします。

(気軽にご来場していただいてご意見などお伺いできれば幸いです)

皆様とお話ができるような企画を考えております。

テーマなど皆様のご意見をお待ちしています。

ご参加ご協力をお願い致します。



第五支部理事 矢崎 (i-yazaki@sart.jp)



### ご意見ご提案があれば気軽にご連絡ください

支部の活動にご協力いただける方からのご連絡お待ちしております。  
できる範囲の活動で構いませんので気軽にご協力をお願い致します。



## 第六支部



発行：埼玉県診療放射線技師会第六支部

1. 定期講習会報告
2. 忘年会報告

埼玉県診療放射線技師会第六支部

2013年12月6日 平成25年度 第5号

### 平成25年度 第2回定期講習会報告

指扇病院 石川 直哉

平成25年11月7日(木)、さいたま赤十字病院にて第2回定期講習会が開催されました。今回の定期講習会では2講演が行われ、参加人数は、25人でした。第1部のテーマは「FREEDセミナーのススメ」で、講師の上尾中央総合病院 館林 正樹様には、中堅技師が陥りやすいモチベーションの低下をバスタブ曲線をたとえに講義していただき、解決策に他施設の診療放射線技師と意見交換を行うことができる FREED セミナーなどがあることをご紹介いただきました。

第2部のテーマは「診療放射線技師が知っておくべき放射線被ばくと管理」で、講師の上尾中央総合病院 佐々木 健様には、基礎知識をはじめ、法律と法令の違いなど、様々な観点から管理をすることの重要性を講義していただきました。

### 忘年会報告

指扇病院 仙波 亮

平成25年11月28日(木)に大宮『かまどか』にて、第六地区忘年会が行われました。

お忙しい中29人のご参加有難うございました。

石川会長の挨拶で始まり、2時間という短い時間ではありましたが、他施設の会員の方々との親睦がはかれ、情報交換やモチベーションの向上につながったのではと思っております。

今回、多忙のため参加できなかった会員の皆様、平成26年度も納涼会や忘年会などを企画させていただきますので、ぜひご参加下さいますよう宜しくお願い致します。